

薬剤師として、国際協力を志す

青年海外協力隊員として、
ガーナでHIV対策に取り組む薬剤師の奮戦記です。

任地の紹介

2008年9月より、ガーナ共和国イースタン州アコソボにて、青年海外協力隊のエイズ対策隊員として、アソオジャマン郡保健局の母子保健部に勤めています。

アコソボのあるイースタン州は山や湖などに囲まれた自然豊かな地域です。世界最大の人造湖ボルタ湖やガーナや近隣諸国の電力供給源であるアコソボダムがあることでも有名です。首都から約2時間というアクセスのよさもあり、観光地化、企業の進出も盛んで町の中心はにぎわっています。一方で、ボルタ河沿いには昔ながらの漁業に従事する人々、山間部には多くの農民が住んでおり彼らの収入は不安定で、格差の激しい地域でもあります。

ガーナの公用語は英語ですが、ガーナでは多様な民族が共存しており、現地語の数は40以上に上ります。私の住んでいる地域でも、3種類以上の現地語が飛び交っています。

任務内容

ガーナのHIV感染率は1.7%（2008年）で、年々減少傾向にあります。私の活動するイースタン州は、HIV感染率が4.2%と、ガーナ国内で最も高い地域です。

状況を改善するために、若者や地域の人に対するHIVに関する正しい知識の普及、HIV検査・カウンセリング事業の推進そしてHIV陽性者の支援、人材育成などを包括的に取り組むことを目指し活動しています。



配属先である郡保健局からながめるボルタ河



同僚の看護師にデータ集計などパソコン指導する様子

活動の実際—活動を始めるまで

ガーナに来る前、自分の知識や経験を活かして、「現地の人のために何かの役に立ちたい!」と意気込んでやってきました。

でも、実際ガーナに来た当初、外国人で現地語もままならない私にできることといえば、同僚のパソコン指導や事務作業くらいでした。

現地の人とともに…という理想を描いていた私にとっては、自分が必要とされているのか、はじめの数カ月は疑問を抱える日々でした。

それでもとにかく、同僚が出かけるときは一緒についていき、訳もわからないまま現地語の会議に参加したり、写真の記録係を買って出たり、保健局事務所での仕事だけにこだわらず、NGOや郡役所、郡教育局の人の仕事を見せてもらったりしました。

そのうち、顔見知りも増え、人間関係や郡内で何が起きているか少しずつわかるようになってきました。

初めの頃は、同僚と一緒に学校やコミュニティへ健康教育の活動へ行っても見ただけでした。しかし、こちらに来て半年が経ち、生活や職場に慣れるとともに、少しずつ同僚の説明に自分の意見を補足したり、教育活動の終わりに同僚が「今日の話どうだったかな、うまくできたかな」と聞いてくれるようになったので、「よかったよ。お疲れさま。でも、ここはもっとこうしたらどうかな」と話し合えるようになりました。

活動をしていて一番つらいことは、死が身近にあることです。毎週のように誰かが亡くなったという話を聞きます。この10カ月で、職

後町陽子(ごちょう・ようこ)

2003年-2004年 薬学生の集い(APS-JAPAN)会長
2005年-2006年 国際薬学生連盟(IPSF)本部役員
2007年 明治薬科大学卒業
2008年9月~青年海外協力隊としてガーナ イースタン州 アコソボのアソオジャマン郡保健局にてエイズ対策分野で活動中
連絡先: yohkocco04007@yahoo.co.jp
ブログhttp://yohkotin.blogspot.com/
Website http://www.geocities.jp/yohkocco0407/



ヤムイモを分け合う近所の子供たち

場だけでも医師1名、看護師1名、プロジェクトオフィサー1名と3名の同僚を亡くしました。若く優秀な同僚が突然、事故やマラリアなどで亡くなっていく現実を目の前に、活動以前に、今日自分が生きていられることが当たり前でないと感じさせられます。

* * *

次号からは、具体的な活動内容や、ガーナの医療、薬学について紹介させていただきたいと思います。

ガーナのいいところ

アフリカ、と聞いて、貧困、紛争、など悲惨なイメージを持っている人も多くいるかも知れません。私もガーナに来るまではそうでした。しかし、ガーナに来て驚いたことは想像以上に平和だということです。町を歩いていて危険な思いをしたこともないですし、女性や子供が夜、独りで歩く姿もよく見かけます。「どうしてこんなに格差や貧困があるのに、争いが起きないのか」とガーナ人に尋ねると、「ガーナ人は悪い人を許さない」とか「昔からの伝統で、裕福な人が貧しい人に分け与えるのが当たり前の社会だから」といった答えが返ってきます。

ガーナのいいところはたくさんありますが、一つは食事がおいしいことです。煮込んだスूपやシチューと、ヤムイモや食用バナナをお餅のようにこねた「フフ」とか「パンク」といった食べ物が主食です。フフはとてもしやわらかくて、辛いスूपと肉や魚と食べる時暑さも疲れも吹き飛びます。

そして、学ぶこともたくさんあります。人々はとにかく明るく仲良く暮らしています。何時間かけて家族のために食事をつくるお母さんや幼い兄弟の面倒を見る小学生、そして伝統文化を大切に守り続ける村人を見ていると、私たちが日本人が忘れてしまった大切なものがここにあると感じています。何よりも素敵だなと思うことは、ガーナの人は100%に近い確率で、「自分の国が好きだ」と言います。みな、伝統や文化に誇りを持って生きています。まだまだ私たちが学ぶことはたくさんあると日々感じています。